

第 23 回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	ウィメンズカウンセリング松山
開催日時	2022年2月5日 14:00～15:30
テーマ	私ってもしかしたらカサンドラ？ 気持ちが通じないパートナーとの付き合い方 パートⅡ
形式	講演会
講師等	フェミニストカウンセラー：清野初美 他、WCM スタッフ数名
<p>〈内容〉</p> <p>今回も、直前に CATV による録画になったが、対面での分科会実施を期待していたため、対応が十分でなかったかもしれない。ワークショップで当事者同士の出会いと語り合いを今年こそと期待が大きかったために、切り替えに時間がかかった。</p> <p>「カサンドラ愛情はく奪症候群」について、去年の分科会報告を載せた「お便り 16 号」を読んだ方からの反響を見てもこのカサンドラ状態に悩む女性の多さを確信した。「もしかしたら私ってカサンドラなのかな？」と疑問を持った方に、自分の状態の理解ができるように講演内容を工夫した。また、アスペルガー当事者の方から見ても、ある程度自分の状態に気づく事が出来るように、去年は言及できなかった AS（アスペルガー）当事者の長所にもスポットを当てる内容とした。昨年のように、講義だけでなく体験談のコーナーを設けることができたので、よくある事例を、スタッフが発表する形式で報告した。たまたま、発売されたばかりの週刊誌に載っていた事例も女性がカサンドラに陥る典型的な体験談だったので、紹介する事が出来た。</p> <p>女性の側からは、カサンドラ症候群問題だが、家族や当事者の立場からは「シニアの発達障害」として、これから社会が認識していくべき大きな課題となるだろうと気づく分科会になったと思う。</p> <p>〈まとめ〉</p> <p>昨年、何とか自助グループ開催に結び付けたいという分科会実施の目的の一つだったが、3月から、始めることになり、二年がかりで同じテーマに取り組んできたことの成果が一つ形となった。しかし、女性の悩みの大きな部分がパートナーと気持ちの通じないことにあることは、まだ社会に認識されておらず、これからもカサンドラに悩み苦しむ女性たちの存在をアドボケイトしていく必要性は高まる一方だと思う。2020 年には、企画発表会でどなたも認識されなかった「カサンドラ症候群」だが、2021 年は主催者側認識されていた。2022 年度は、ワークショップの形で開催実現出来たら、さらに松山市民の理解が広がるのではないかと期待している。</p> <p>本年度もオンライン実施になる可能性もあるので、ズーム配信能力獲得は大きな課題である。</p>	

※この報告書は、当財団のホームページに掲載させていただきます